

---

# ANDROID

勝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ANDROID

### 【Nコード】

N3726M

### 【作者名】

勝

### 【あらすじ】

先進国首脳会議に出されたビデオと空軍で起きた事件

## 空軍の事件

先進国首脳会議 アメリカ

「Let's watch this movie.」と、オバマ大統領が言った。そして、秘書が一本のビデオを出した。そこに映るものは人間の領域を超える物が映っていた。

「数日前、我らの空軍にこれが現れました。」

数日前 アメリカ軍空軍基地

バラバラッー。一台のヘリが飛ぶ。

「管制塔 ヘリです。」

「何？どこの軍だ？」

「分かりません。謎のマークです。」

すると管制塔が

「そのヘリ。止まりなさい！」注意するもきかない

「管制塔、発砲許可を」

「了解」

すると、管制塔は言葉を失った。そこにはヘリと言う巨体を変身させ、まるでロボットの様な物が立っている。

ズダダダッ。銃声がなるも戦車が爆音を轟かせるも無駄。

一人の兵士が必死に闘う。彼の名前はリード・チャード二等兵。

全兵士が死ぬも彼は生き残った。

先進国首脳会議 同日 数時間前

その少年は見てはならないもの見てしまった。

## 氷河の中のテクノロジー

1674年 南極点

吹雪が吹く中歩く老人。彼の名前はグリーン・リスト。研究者だ。彼は近頃落ちた隕石の

調査にきたのだ。ちょうど隕石が飛来したあたりにさしかかった。

カツ、カツと氷河

を削る。すると、まるで機械のような物で溶けた。変わった道が続いていた。無論グリーン

はその道を歩いて行った。その先には凍りきった機械のような生命体があった。

「これは一体？」やはり彼も人間だ。その生命体に触れてしまった。起動音のようなものが

聞こえたがとくに変化は無かった。しかし、そこには血を流しながら死んでいた。そして

彼の持っていた手帳には見た事も無い言語のようなものが刻まれていた。彼の遺体もその生命体

も回収された。しかしその手帳は遺族に返された、それから300年も先にある子孫が初めて

その謎の言語を見てしまう・・・

## 運命の少年

僕は冴えない高校生チェスト・リストだ。そして、僕は今日見てはならない物を見てしまった。

「じゃあ、僕の先祖の遺体は今は無いだね。」

「ああ、あったとしてももう数百年も前の話だからね・・・でもその先祖の持っていた

手帳ならある」と僕の祖父が手渡した。まじまじと見ていると携帯の発信音が鳴り響く。

「待ってて」祖父がそういつて部屋から出て行った。飽きて来た頃に偶然開けてしまった。

そのページ・・・そこには全く見た事のない文字が二つ、三つ並んでいて。そして、僕はなぜか

そのページを切り取ってしまった。ドアが開いて祖父が帰って来た。そして、手帳を手渡しその場

を去った。そして、愛車の洗車に向かった。そして、ワックスもかけ、中也掃除しドライブに出かけた。

そして、僕はこの後言葉にならないほどあり得ないものを見てしまう。

## 自分の運命

戦闘機が飛ぶ……。チェストの走らせる車の上空を迂回しかけた頃、突然戦闘機は変身した。

すると、それを見たかのようにチェストの車も変身した。

「うわっ！」無論驚くチェスト。すると、車はビートと名乗った。

そして、ビートは腕から

剣を出した。火花を散らしながら、ぶつかり合う剣と剣……。あきれたようにビートは銃

を出し、撃つ。それでも倒す事を出来ないビートは肩に隠したロケットランチャーを打ち込み

敵は全身粉々に壊れてしまった。

「す……すげえ！」

その夜

中々の豪邸に住んでいる。しかし家にある噴水が壊れ、大きな足音が聞こえた。外を

見ると見慣れない車達……

## ヴィルコイル

その見慣れない車達がビートの様に変身した。も慣れてしまったチエストは小声で怒鳴った。

「何してるんだ！母さん達が起きたらどうするんだ！！」

「チエスト・リストだな。こっちに来い」チエストはしぶしぶ下に降りて行った。

ガンッ！何かの壊れる音。

「なんだ？あ、壊れた。」

裏路地

「で、何だ？」不満そうに聞く。

「まずは自己紹介からだ。俺はリール・グローンだ。よろしく」

「俺はガチエツトだよ」出しゃばるガチエツト。

「うるさいぞ！」怒るリール。

「ヘーい」

「で？何の用？」今にも帰りそうなチエスト。

「実は・・・」

## 祖先の血

「実は君は狙われてる・・・」深刻な話だった。

「えっ？どうして」そしてリールが次の言葉を発しようとした時、  
「グラグセクターだ抵抗するな」アメリカの裏特殊部隊グラグドセクター。ビート、

リール、ガチエツト、またそのほかの物も闘った。しかし、グラグドセクターも甘くなかった。

ヴィルコイルの一人ビートがグラグドセクターの罠にかかり、捕らえられてしまった。

「連れて行け」

「待ってくれ。それは俺の大切な友達なんだ！頼む・・・」しかし、連れてかれるビート・・・

次の日

「チェスト・・・チェスト」聞こえる声・・・。

「はっ。」そこは公園だった。

「さ、行くぞ」

「えっどこへ？」リールに聞くチェスト。

「NORADだ。そこにはビートもいる。そして・・・」ごまかすリール。

「えっ？」



## NORADの秘密

NORAD特殊押収品取り締まり基地

橋に捕まるガチエツト。彼らは、今捕まったビートを助けるためにNORADの基地にいた。

「すげえ・・・」広大な土地の基地に驚く一同。

「はっ！そうだビートは？！」今にも走り出そうとするチエストを一人の兵士が止めた。

彼はライリー・デュエル二等兵。

「あれ・・・こいつらを（アンドロイド達）を見ても驚かないんですね・・・」

「あ・・・ははっ・・・そりゃあ目の前でみたよ・・・」そう実は彼は空軍に襲撃したアンドロイドと闘った。

最後の兵士は彼だった。そして、中に入る一同。冷凍されているビートを解凍した。

しかし、同日スパイ諜報型アンドロイドがここに着ていた。そんな事も知らず中に

入る。そこには、大きなキューブがあつた。それには謎の文字・・・  
「なにこれ？」

「我々にも分からないと答えるNORAD」

「・・・・・・。」黙り込むアンドロイド達

「え、何？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3726m/>

---

ANDROID

2010年10月10日06時42分発行